

# 化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

後期

科目No.	252	科目名	生物総合評価管理学2	サブタイトル	遺伝子組換えに関する行政の判断と取組み		
共催機関名	農林水産省	レベル	基礎	講義枠	金曜日	講義時間	18:30~20:00
科目概要(300字程度)	遺伝子組換え作物については、その大きな可能性がある一方で、不安を感じる人も多く、実用化が進まない状況にある。このような状況において、政府はどのように行政判断を行い、施策を展開しているのか。行政の考え方や施策を事例とともに学ぶ。また、施策の決定のための新たな手法といえるリスクコミュニケーションを実施し、遺伝子組換え作物の今後について考える。						

サブタイトル	講義名	講義概要(150字程度)	講義日	教室	講師名	所属
遺伝子組換えとは何か	1 遺伝子組換えの定義と歴史	遺伝子組換え技術とはどのようなものか。遺伝子組換え技術開発の背景にある、技術の発展やそれを求めた社会的ニーズなどを踏まえ、遺伝子組換えの定義やその歴史を説明する。	10月6日	1号館101	日野 明寛 次長	内閣府 食品安全委員会事務局
組換え作物の利点、夢	2 組換え作物の具体例	現在、利用されている遺伝子組換え生物の種類や特徴、その性質がどのような原理でもたらされるか、また、今後遺伝子組換えがもたらし得る将来の可能性について、現在開発中の事例なども踏まえ、説明する。	10月13日		大島 正弘 遺伝子技術研究室長	(独)農業・食品産業技術総合研究機構 作物研究所 稲研究部
世界ではどう扱われている？	3 国際社会における遺伝子組換え	国際的に、遺伝子組換え作物はどのように考えられているのか、海外での生産の実態や、各国の遺伝子組換えに関する議論・制度について説明する。	10月20日		渡部 靖夫 次長	農林水産省 農林水産政策研究所
街にある情報から考える	4 情報の現状及びその課題	身近になりつつある遺伝子組換え作物。では、消費者は普段遺伝子組換えについてどのような情報に接しているのか？マスコミの報道やスーパーの食品コーナーなど街で接する情報について考える。	10月27日		立川 雅司 主任研究官	農林水産省 農林水産政策研究所 企画連絡室
国民にとっての現状	5 遺伝子組換えの社会学	国民は現在遺伝子組換えについて、どのような考えを持っているのか。アンケートの結果や寄せられた質問及びそれに対する回答を紹介し、遺伝子組換えに関する世論の状況について分析し、考える。	11月17日		平野 哲也	(社)農林水産先端技術産業振興センター 調査広報部
技術革新による「食べる」の向上	6 国が行うこと研究・開発の取組み	遺伝子組換え作物の研究・開発が進む中で、我が国としては、どのような考え方で、どのような施策を推進しているのか説明する。	11月24日		佐藤 夏人 課長補佐(振興班)	農林水産省 技術会議事務局 先端産業技術研究課
望まれる情報提供の形とは	7 国が行うこと情報の提供	国はこれまでどのような情報を、どの様に提供してきたのか。これまでの取組みを説明し、今後の課題、問題点及びその解決策について議論する。	12月1日		森澤 敏哉 総括補佐	農林水産省 技術会議事務局 技術安全課
食べて大丈夫？大丈夫！	8 国が行うこと食の安全確保	食品衛生法 遺伝子組換え技術を用いて生産される食品等について、国が行っている食品健康影響評価について説明する。	12月8日		吉富 真理 補佐	内閣府 食品安全委員会事務局
飼料発 牛経由 人行き	9 国が行うこと食の安全確保	飼料安全法 法の理念や制定に至る状況、遺伝子組換えに関する考え方、施策の内容について説明する。	12月15日		元村 聡 補佐(飼料安全基準班)	農林水産省 消費・安全局 畜水産安全管理課
消費者の選択のために	10 国が行うこと遺伝子組換え食品の表示	JAS法 法の理念、品質表示基準制度の基本的考え方とその仕組み、その中での遺伝子組換え食品の表示制度について説明する。	12月22日		足立 教好 補佐(表示企画班)	農林水産省 消費・安全局 表示・規格課
多様性は可能性	11 国が行うこと国際社会での日本	カルタヘナ議定書など国際的な取組みに基づく日本の生物多様性の保全に関する施策について説明する。	1月5日		堀内 洋 補佐	環境省 自然環境局 野生生物課
日本の生物多様性を守るために	12 国が行うこと組換え作物の使用の管理	カルタヘナ法 法の理念や制定に至る状況、遺伝子組換えに関する考え方、施策の内容について説明する。	1月12日		藤河 正英 補佐(組換え体企画班)	農林水産省 消費・安全局 農産安全管理課
リスクコミュニケーションとは	13 食品安全行政におけるリスクコミュニケーション	食品の安全性に関するリスクコミュニケーションとはなにか。行政が取り組むリスクコミュニケーションの考え方とその実際について説明する。	1月26日		富澤 宗高 補佐(リスクコミュニケーション推進班)	農林水産省 消費・安全局 消費者情報官室
リスコミの実例と反映	14 国民理解を進めるための新たな取組み	リスクコミュニケーションの実例(市民会議等)を踏まえ、それがどのように実施され、成果を得たのか説明する。	2月2日		高橋 祐一郎 主任研究官	農林水産省 農林水産政策研究所 評価・食料政策部
実践、リスクコミュニケーション - 1歩前へ -	15 これからの遺伝子組換え技術をどうするか	これまでに勉強してきたことを踏まえ、今後の遺伝子組換え技術についてリスクコミュニケーションを実践する。あなたは遺伝子組換えについて、どう考えますか？	2月9日		森澤 敏哉 総括補佐	農林水産省 技術会議事務局 技術安全課